第七講『宇治拾遺物語』

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

今は昔、信濃国に法師ありけり。さる田舎にて法師になりにければ、まだ受戒もせで、いかで京に上りて東大寺といふところにて受戒せんと思ひて、とかくして上りて受戒してけり。さて、もとの国へ帰らんと思ひけれども、「よしなし、さる無仏世界のやうなる所に帰ら［Ｉ］。ここにゐなん」と思ふ心つきて、東大寺の仏の御前に候ひて、いづくにか行ひしてのどやかに住みぬべき所あると、よろづの所を見回しけるに、①坤（ひつじさる）のかたにあたりて山かすかに見ゆ。そこに行ひて住まんと思ひ行きて、山の中に②えもいはず行ひて過ぐすほどに、すゞろに小さやかなる厨子仏を行ひ出したり。③毘沙門にてぞおはしましける。

そこに小さき堂を建てて据ゑ奉りて、えもいはず行ひて年月を経るほどに、この山の麓にいみじき下種（げす）*徳人ありけり。そこに聖の*鉢は常に飛び行きつゝ、物は入れて来けり。大きなる校倉のあるを開けて物取りいだすほどに、この鉢飛びて例の物こひに来たりけるを、「例の鉢来にたり。④ゆゝしく*ふくつけき鉢よ」とて取りて倉の隅に投げ置きて、とみに物

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

も入れざりければ、鉢は待ちゐたりけるほどに、物どもしたゝめ果ててこの鉢を忘れて物も入れず取りもいださで、倉の戸をさして立ち帰りぬるほどに、とばかりありてこの倉(a)すゞろにゆさ〳〵とゆるぐ。「いかに〳〵」と見騒ぐほどに、ゆるぎ〳〵て土より一尺ばかりゆるぎあがるときに、「こはいかなることぞ」と怪しがりて騒ぐ。「まこと〳〵、ありつる鉢を忘れて取り出でずなりぬる、それがしわざにや」などいふほどに、この鉢倉よりもり出でて、この鉢に倉乗りてたゞ上りに(b)空ざまに一、二丈ばかり上る。さて飛び行くほどに、人々見のゝしり、あさみ騒ぎあひたり。倉の主もさらにすべきやうもなければ、「この倉の[Ⅱ]ところを見ん」とて、尻に立ちて行く。そのわたりの人々もみな走りけり。

さて見れば、やう〳〵飛びて、河内国に、この聖の行ふ山の中に飛び行きて、聖の坊のかたはらにどうと落ちぬ。

いとゞあさましく思ひて、Aさりとてあるべきならねば、この倉主、聖のもとに寄りて申すやう、「かゝる(c)あさましきことなん候ふ。この鉢の常にまうで来れば物入れつゝ参らするを、けふ紛らはしく候ひつるほどに、倉にうち置きて忘れて取りも出ださで錠をBさして候ひければ、この倉たゞゆるぎにゆるぎて、こゝになん飛びてまうで来て落ちて候ふ。この倉返し給ひ候はん」と申すときに、「まことに怪しきことなれ[Ⅲ]、飛びて来にければ倉はえ返し取らせじ。ここ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

にかやうの物もなきに、おのづから物をも置かんによし。中ならん物は〔C〕さながら取れ」とのたまへば、主のいふやう、「いかにしてか、たちまちに運び取り返さん。千石積みて候ふなり」といへば、「それはいと［Ⅳ］ことなり。確かに我運びて取らせん」とて、この鉢に一俵を入れて飛ばすれば、雁などの続きたるやうに残りの俵ども続きたる、群雀（むらすずめ）などのやうに飛び続きたるを見るに、いとゞあさましく尊ければ、「⑥しばし、みななつかはしそ。米二、三百は留めてつかはせ給へ」といへば、「あるまじきことなり。それこゝに置きては何にかはせん」といへば、「〔D〕さらば、たゞ使はせ給ふばかり、十、二十をも奉らん」といへば、「〔E〕さまでも⑦いるべきことのあらばこそ」とて、主の家に確かにみな落ちゐにけり。

（『宇治拾遺物語』巻八「信濃国の聖の事」より）

（注）

＊徳人…裕福な人。

＊鉢…托鉢に用いる鉢。

＊ふくつけき…貪欲な、強欲な。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　空欄Ⅰに入る語として最も適当なものを次のイ〜ホから一つ選べ。

イ　じ　　ロ　ばや　　ハ　まし　　ニ　るれ　　ホ　ん

問二　傍線部①「坤のかた」が表している方角を次のイ〜へから一つ選べ。

イ　南西　　ロ　南東　　ハ　西南西
ニ　東南東　　ホ　南南西　　へ　南南東

問三　傍線部②「えもいはず行ひて過ぐすほどに」はこの「法師」のどのような様子を表しているか、最も適当なものを次のイ〜ホから一つ選べ。

イ　一心不乱に厳しい修行にはげむありさま
ロ　自然と交わりのんびりと過ごすありさま
ハ　誰とも言葉を交わさず修行するありさま
ニ　人のいない深山で孤独に耐えるありさま
ホ　山の中を隈無く無言で歩き回るありさま

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部③「毘沙門にてぞおはしましける」の現代語訳として最も適当なものを次のイ～ホから一つ選べ。

イ　毘沙門天でいらっしゃった　　ロ　毘沙門天でございました
ハ　毘沙門においでになった　　ニ　毘沙門のところに現れた
ホ　毘沙門のところにございました

問五　傍線部④「ゆゝしくふくつけき鉢よ」は「徳人」のどのような気持ちを表しているか、最も適当なものを次のイ～ホから一つ選べ。

イ　哀惜　　ロ　畏怖　　ハ　悔恨　　ニ　寛容　　ホ　立腹

問六　傍線部（a）「すゞろに」、（b）「空ざまに」、（c）「あさましき」の意味として最も適当なものを次のイ～ホからそれぞれ一つずつ選べ。

（a）「すゞろに」
イ　思いがけず　　ロ　素早く　　ハ　激しく
ニ　不思議にも　　ホ　ゆっくりと

（b）「空ざまに」
イ　空っぽの様子で　　ロ　空気のように　　ハ　空に着くまで
ニ　空に向かって　　ホ　何もなかったように

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（c）「あさましき」

イ　呆れ果てた　　ロ　あさはかな　　ハ　ちょっとした
ニ　不吉な　　ホ　欲深い

問七　空欄Ⅱに入る語句として最も適当なものを次のイ～へから一つ選べ。

イ　行きけん　　ロ　行きし　　ハ　行かん
ニ　来たる　　ホ　来にける　　へ　来ざる

問八　傍線部⑤「さて」の「さ」と同じ機能を持つ「さ」が使われていない文節を問題文の波線部A～Eから一つ選べ。

A　さりとて　　B　さして　　C　さながら　　D　さらば　　E　さまでも

問九　空欄Ⅲに入る語として最も適当なものを次のイ～ホから一つ選べ。

イ　と　　ロ　ど　　ハ　ば　　ニ　ばか　　ホ　り

問十　空欄Ⅳに入る語として最も適当なものを次のイ～ホから一つ選べ。

イ　かしこき　　ロ　さうざうしき　　ハ　しるき
ニ　やすき　　ホ　ゆかしき

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十一　傍線部⑥「しばし、みななつかはしそ」の現代語訳として最も適当なものを次のイ～へから一つ選べ。

イ　しばらくの間、すべてでなくてもお与えください
ロ　しばらくの間、全部は差し上げないでおきましょう
ハ　しばらくの間、みんな送り返してしまいましょう
ニ　待ってください、すべてお与えしてはいけません
ホ　待ってください、みんな差し上げてもかまいません
へ　待ってください、全部お返しにならないでください

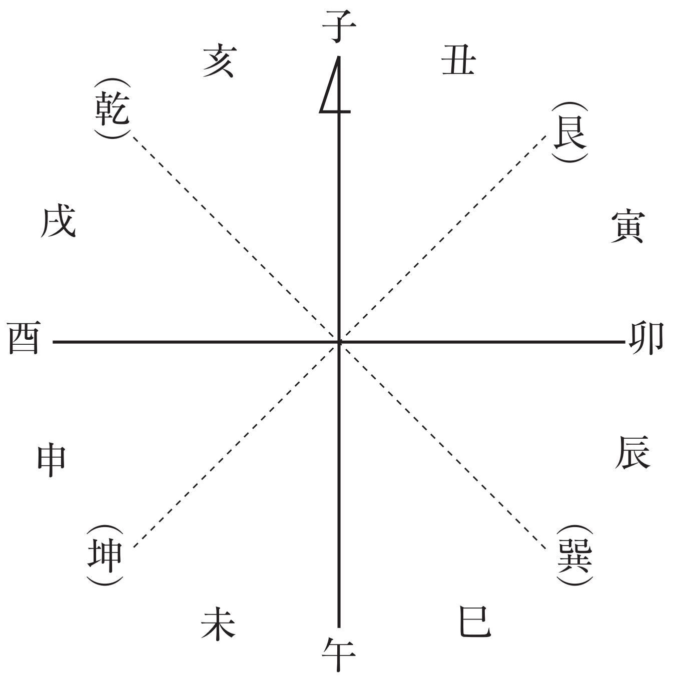
問十二　傍線部⑦「いるべきことのあらばこそ」とほぼ同じ意味になる表現を次のイ～ホから一つ選べ。

イ　いるべきことあらばや
ロ　いるべきことかは
ハ　いるべきことこそあなれ
ニ　いるべきことなせそ
ホ　いるべきこともがな

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【補足】（講義動画中に使用します）

「方角」



「時刻」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　復習問題

①「巳の時」の時刻は、現在の何時にあたるか、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　午前七時ごろ　イ　午前十時ごろ　ウ　午後一時ごろ
エ　午後八時ごろ　オ　午後十時ごろ

②「申の時」とあるが何時頃か。正しいものを、次の中から選べ。

ア　午前八時頃　イ　午前十時頃　ウ　正午頃
エ　午後二時頃　オ　午後四時頃

③「午刻」は現在の何時ごろですか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　昼の十二時ごろ　イ　昼の三時ごろ　ウ　夜の二時ごろ　エ　夜の八時ごろ

④「酉の刻」とあるが、これはいつごろを指すのか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　午後二時ごろ　イ　午後四時ごろ　ウ　午後六時ごろ
エ　午後八時ごろ　オ　午後十時ごろ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑤「子の方」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　北の方　イ　東の方　ウ　南の方　エ　西の方

⑥「ののしる」の意味として、最適なものを次の中から選べ。

ア　尋ねる　イ　大声を出す　ウ　催促する　エ　つめよる　オ　罵詈雑言を浴びせる

⑦「さうざうしく」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　しらじらしく　イ　もの足りなく　ウ　見苦しく
エ　腹立たしく　オ　わざとらしく

⑧「その夜は起きあがるべきかは。」の傍線部の文法的な意味として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　詠嘆　イ　婉曲　ウ　強調　エ　反語

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　模範解答

問一　イ　**問二**　イ　**問三**　イ　**問四**　イ　**問五**　ホ

問六（a）イ（b）ニ（c）イ　**問七**　ハ　**問八**　B

問九　ロ　**問十**　ニ　**問十一**　ヘ　**問十二**　ロ

〈現代語訳〉

今となっては昔のことだが、信濃国に法師がいた。そのような田舎で法師になったので、まだ戒律を受けることもしないで、なんとかして上京して東大寺というところで受戒しようと思って、どうにか上京して受戒した。そして、もとの国へ帰ろうと思ったけれども、「つまらないことだ、あのような仏法のないような所には帰るまい。ここにいよう」という気持ちになって、東大寺の仏様の前に控えていて、どこかに仏道修行をしてゆっくりと住めるところはないかと、四方を見回したところ、南西にあたる方角に山がかすかに見える。そこで修行をして住もうと思って行って、山の中で言葉にできないほど厳しい修行に励んで過ごすうちに、なんと言うこともなく小さな厨子仏を修行をして手に入れた。（それは）毘沙門天でいらっしゃった。

そこに小さな堂を建てて（毘沙門天を）安置申し上げて、言葉にできないほど厳しい修行をして年月を過ごすうちに、この山の麓に身分は卑しいがたいそう裕福な人がいた。そこにこの聖の托鉢の鉢は常に飛んで行っては（食べ）物などは入れて（もらって）来ていた。大きな校倉があるのを（裕福な人が）開けて物を取り出すときに、この鉢が飛んで（来て）いつものように物をもらいに来たので、「いつもの鉢が来た。ひどく強欲な鉢だよ」と言って（手に）取って倉の隅に投げ置いて、すぐに物も入れなかったので、鉢は待っていたところ、（裕福な人は倉の中の）物を整理し終わるとこの鉢を忘れて物も入れず取り出しもしないで、倉の戸に鍵をかけて帰ってしまったところ、しばらくしてこの倉が思いがけずぐらぐらと揺れる。「どうした、どうした」と見て騒ぐうちに、揺れに揺れて地面から一尺ほど揺れて上がるときに、「これはどうしたことだ」と怪しがって騒ぐ。「そうそう、さきほどの鉢を忘れて取り出さないままだった、それのしわざであろうか」などと言ううちに、この鉢が倉から抜け出して、この鉢（の上）に倉が乗ってひたすら上って空に向かって一、二丈ほど上る。そして飛んで行くので、人々は見上げて騒ぎ、呆

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

れ返ってわいわい騒いでいた。倉の主もまったくどうしようもないので、「この倉の行く先を見よう」と言って、後ろについて行く。そのあたりの人々も皆走っ（てついて行っ）た。そうして見ていると、だんだん飛んで、河内国の、この聖が修行している山の中に飛んで行って、聖の僧坊の傍らにどんと落ちた。

ますます呆れた思いで、そうかといってこのままにしておくわけにはいかないので、この倉の主人が、聖のそばに寄って申し上げることには、「このような呆れ果てたことがございます。この鉢がいつもやって来ますので（私は何か）物を入れては差し上げていますのに、今日は忙しさに紛れていますうちに、倉に置いて忘れて取り出しもしないで錠をかけてしまいましたところ、この倉がひたすら揺れて、ここに飛んで来て落ちたのでございます。この倉をお返しください」と申し上げたときに、「ほんとうに不思議なことだが、飛んで来たので倉は返すことはできません。ここにはこういうものがないので、ちょうど物を置くのに都合がよい。（この倉の）中にある物はそのまますべて取りなさい」とおっしゃるので、主人が言うには、「どのようにして、すぐに運んで取り返そうか。千石も積んであるのです」と言うと、「それはいとも簡単なことだ。確かにこの私が運んであげよう」と言って、この鉢に一俵を入れて飛ばすと、雁などが続くように残りの俵も（それに）続いて、群雀などのように飛んで続いて行くのを見ると、ますます驚きあきれて尊く感じられたので、「待ってください、全部お返しにならないでください。米二、三百石は残してお使いください」と言うと、「とんでもないことだ。それをここに置いて何にしようか、いや、何にもならない」と言うので「それならば、ただお使いになるだけ、十俵でも二十俵でも差し上げましょう」と言うので、「それほども入り用なことなどあるものか」と言って、主人の家に確かに全部（が戻って）落ち着いた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕

○おこなひ【行ひ】…①行動。　②**仏道修行**。

○えもいはず【えも言はず】…①**はなはだしい**。　②言いようもなくすばらしい。　③言うねうちがない。

○すずろなり【漫ろなり】…①**なんとなく〜だ**。　②**むやみやたらである**。　③**思いがけないさま**。　④**関係もないさま**。

○いみじ…①**はなはだしい**。　②すばらしい。　③ひどい。

○ゆゆし…①**おそれ多く慎まれる**。　②忌まわしい。**不吉だ**。　③たいそうである。　④**すばらしい**。　⑤ひどい。

⑥気味が悪い。　⑦勇敢だ。

○さす【鎖す】…閉じる。**鍵をかける**。

○とばかり…**ちょっとの間**。

○ののしる【罵る】…①**大騒ぎをする**。　②評判が立つ。　③口やかましくいう。

○いと…①**たいそう**。　②まったく。　③（下に打消の語を伴って）たいして（〜ない）。

○さうざうし…**物足りない**。**心さびしい**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第七講　解答解説

〈解説〉

＊①〜④までは干支で表した**時刻**の問題。「**２（Ｎ〔＝何番目〕−１）**」の公式にあてはめればよい。漢字が読めないと解けないので、干支は読めるようにしておくこと。もちろん、干支の順番も正しく言えるように。

① 「巳＝み」なのでＮ＝６。よって、（午前）十時。

② 「申＝さる」なのでＮ＝９。よって、十六時。

③ 「午＝うま」なのでＮ＝７。よって、十二時。

④ 「酉＝とり」なのでＮ＝10。よって、十八時。

⑤ こちらは干支で表した方角の問題。「子＝ね」なので、北。よって、正解はア。

⑥ 「ののしる」は重要単語で、「大声で騒ぐ」の意味。よって、正解はイ。

⑦ 「さうざうし」は重要単語で、「物足りない・心さびしい」の意味。よって、正解はイ。

⑧ 「**やは・かは**」は、まず「**反語**」から考える。選択肢に疑問がないことから反語確定。よって、正解はエ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔解答〕

①　イ

②　オ

③　ア

④　ウ

⑤　ア

⑥　イ

⑦　イ

⑧　エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。